

第5回 東京都における地域公共交通の在り方検討会 議事概要

1. 日時

令和3(2021)年10月12日(火曜日) 15時00分～16時30分(オンライン開催)

2. 議事

- (1) 検討の進め方
- (2) 東京における地域公共交通の基本方針の策定に向けた方向性の確認
- (3) 意見交換

会議の冒頭に、轟座長から以下のご挨拶がありました。

- ポストコロナ、ウィズコロナの中で、いかに人の移動を支えるかということは非常に重要
- この会議では、人の移動を支える公共サービス、公共交通の在り方、将来に向けての議論をしっかりとしなければならないと、改めて思っている。
- 本日は、基本方針の骨子に関して、ご意見を頂き議論を深めたい。

その後、事務局より議事についての説明と議論を行いました。

委員からの意見は以下のとおり。

■ 東京における地域公共交通の基本方針の策定に向けた方向性について

- 「AVOID、SHIFT、IMPROVE」の考え方については、意図が正確に伝わるように表現を工夫されたい。
- 都がどのような取組・支援を行うのかが分かりにくい。
- 都による広域調整機能のイメージが掴みづらい。都の関与の範囲について考え方を示した方が良いのでは。
- バス事業者は非常に厳しい経営状況にある。自治体としてのサポートについて検討をしていただきたい。
- 一方、採算性が確保できている地域で、運行費用を行政が負担するのは難しいことは理解できる。都の中でも、真に危機が迫っている地域や路線に絞って議論がなされるべきなのでは。

- 都の取組について、以前の議論よりも内容が後退している印象。課題に対して、都がどういう関わり方をするのか、メッセージが必要と感じる。
- 基本方針の中でも大事な部分は、最後のページ（新たな施策の検討）に集約されている。この部分を深掘りする必要がある。
- 地方部に主眼を置いてきたこれまでの支援策は、大都市圏への対応が抜け落ちている。東京においては、都が国に代わる役割を持つことが必要ではないか。

以上